

オオバ新系統「ひたち1号」は、香り、形状が良く夏作に適する		
[要約]オオバ新系統「ひたち1号」における生産者および卸売業者の評価は、行方在来系統より優れ、特に形状、香りなど品質が優れる。低温による抽台発生は行方在来系統よりも多いため、抽台が問題にならない夏作では現地への導入の可能性が高い。		
農業総合センター 園芸研究所	成果 区分	技術情報

1. 背景・ねらい

本県のオオバは行方市を中心として周年栽培が行われており、愛知県について第2位の生産地となっている。しかし、単価は低く、その理由の一つに品種の選定・統一が不十分のために起こる品質のばらつきが挙げられる。品質のばらつきを軽減するために県育成系統を導入することを目的とし、現地適用性、市場性、生育特性を調査する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 生産者評価において、「ひたち1号」は「行方在来系統」に比べて、形状、香りが良く、苦みは弱く評価が高い。収量は「在来系統」に比べてやや少ないが、問題にはならない程度であり、総合評価では有望という評価が多い(表1)。
- 3) 市場評価において、「ひたち1号」は形状、香りの点で優れ、「JA在来系統」に比べて同等以上の評価である(表2)。
- 4) 「ひたち1号」は「JA在来系統」に比べて、生育初期における側枝の発生は多いが、生育中期頃から側枝数の発生、節数の増加が緩やかになる(図1)。
- 5) 「ひたち1号」は「JA在来系統」よりも、抽台の発生が早い(図2)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 行方市北浦地区(JAなめがた、丸北任意組合)5箇所において、冬作の現地試験を実施中である。
- 2) オオバは自家採種を行う。丸北任意組合は個人毎に採種を行うため、個人毎に系統が異なる。JAなめがたでは集団採種を行うため、JAの系統は統一している(JA在来系統)。

4. 具体的データ

表1 現地適用性試験における生産者評価

項目	評価		5	4	3	2	1
形状	良い	悪い					
色	濃い	薄い					
収量	多い	少ない					
日持ち	良い	悪い					
病気の発生	多い	少ない					
苦み	弱い	強い					
香り	良い	悪い					
総合評価	有望	導入困難					

在来系統を3とした場合の相対評価（丸北任意組合： JAなめがた： ）平成20年度夏作

表2 大田市場の卸売業者による市場評価

項目	評価		5	4	3	2	1
形状	良い	悪い					
色	濃い	薄い					
照り	良い	悪い					
苦み	弱い	強い					
香り	良い	悪い					
総合評価	良い	悪い					

JA在来系統を3とした場合の相対評価 平成20年度夏作

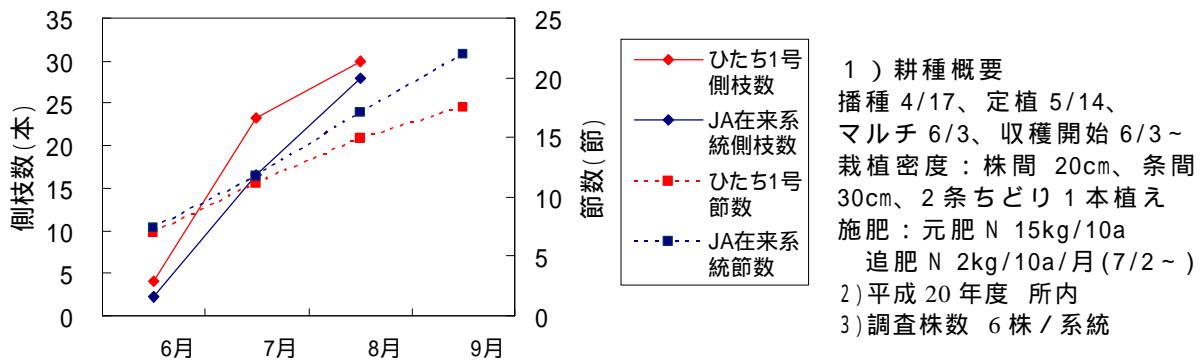


図1 側枝数と節数の時期別変化

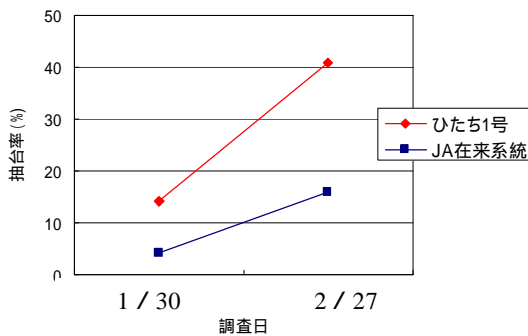


図2 抽台発生率の時期別変化

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

新品種育成普及促進事業・平成18～平成20年度・園研野菜研究室